

神田川巡検

小林玲子

10月5日。私達3年生は久保先生の御指導のもとで、都市河川について理解を深めるために、神田川地域をフィールドとする巡検に参加した。

神田川の水源は、三鷹市の井の頭池で、下端は、台東区の隅田川合流点。延長25.4km。東京の中小河川の中で最も長い。以前は、上流から神田上水、江戸川、神田川と部分ごとに呼び名が異なっていたが、昭和40年以降全体を統一して神田川と言うようになった。

私達は午前9時30分に井の頭公園に集合し、そこからJRお茶の水駅まで、川の流れて沿って移動していった。途中、神田川と合流する善福寺川や妙正寺川の流域まで足をのぼし、河川対策のための調節池を見学した。

山手の河川は、戦後昭和30年代以降から、集中豪雨があると氾濫するようになった。農地を宅地に転用するようになり、水が以前よりも地面にしみ込まなくなったからだ。その後、一時は水害の規模が小さくなったが、最近ほぼ10年間でマンション化が進み、被害は再び増大するようになった。

私達はまず、杉並区にある善福寺川沿いの調節池を見学した。この調節池は普段はテニスコートとして利用されている。水辺はきちんと整備され、所々にベンチやオブジェが置かれている。周辺の住民が川と親しむことができるように工夫されている。

次に中野区西落合にあるマンションを訪れた。このマンションは工場跡地に建てられたもので、

妙正寺川の氾濫に備えて、一階部分に調節池としての空間を備えた造りになっている。集中豪雨があると、この大きな調節池とそれに続く庭に、約1mの高さまで水がたまるという。この付近では、さらに公園や学校の校庭も調節池にする工事が進められている。

このマンションに向う途中、神田川の支流である桃園川の側を通った。この川は汚染が進んだ為、コンクリートでふたをされている。その上は緑歩道として利用されているが、これでは河川の持つ機能を十分に生かせないと思う。汚れたからと言ってこのように暗渠化してしまうのではなく、河川を残し、景観の一部として、都市の中にもうまく取り入れていくことはできないのだろうか。

神田川流域では、いたるところで河川対策が行われているがその方法は様々である。新しい家は、ほとんど道路より一段高い所に建てられている。最後に訪れた高田馬場では、特にこのような自己防衛が目立った。マンションはそれぞれ頑丈な防潮板を備え、一戸建家屋もそれぞれ工夫を凝らしていた。しかし、これだけでは不十分であるし、それができない家は、より大きく被害を受けることになる。地域ぐるみで対策を考える必要があると思う。そこから川に沿って下流に進み、JRお茶の水駅で解散となった。

今回の巡検では、都市河川の様々な側面を見ることができたと思う。これ以来、私は興味を持って河川を眺めるようになった。

(10月5日 久保教官指導)

清瀬巡検

三木初恵

10月4日9時30分。我々2年生は西武池袋線清瀬駅に集合した。そのまま徒歩で結核予防会結核研究所へ向かう。まずは研究所の古参の方に話を伺うことができた。

研究所の成り立ち、昔は結核が不治の病であったこと、そして科学の発達とともに克服されてゆき、今では殆どの施設が閉鎖或は他の目的の施設に変わっていったこと…。結核研究者も多くが肺

がん・エイズの研究へと移っていつているそうだ。しかし、無論根絶した訳ではなく受験進学校で集団発生することもあるという。(運動不足・ストレスetc)一週間以上咳が続く時は専門家に診てもらえとの忠告を受け、今度は病院内部を案内していただいた。屋上へ登って見回すとあたりは今でも緑が多い。昔はさぞ草深い療養地だったろうと偲ばれた。

病院内の食堂で昼食をとった後、気象衛星センターへ。スライドを見せていただいた後、センター内部を説明をうけながらまわる。衛星から情報が伝達される様、それらを解説して天候の予測をする経緯などがおぼろげながら理解できた。

興味深かったのは衛星から送られてきた写真を時間をずらして次々と写しだしているモニター(?)である。画面中央に日本がある。青い地に白くはけで掃いたようにみえているのが雲だろう。カチャカチャと音をたてて画面がうつりかわるに従って、太平洋上に発生した巨大な渦巻きがぐーっと巻きこみながら日本のはるか南をくぐって中国の方へ通り過ぎていった。ははあ、これを見ながら動きを予測するんだな。納得する。渦の

真中にぼつんと針でついたように開いた穴がいわゆる“台風の目”だと気付いて驚いた。考えていたよりずっと小さい。本当はこんな風にはっきり見える事の方が少なくて、この目を探しだすのが大変なのだとも伺った。さもありなん、渦にまぎれてしまうそうだ。そんな画面を食いつくように見て何事か統計をとっている人達。どこもかしこも複雑そうな機械で一杯だった。これだけの設備を使ってもなかなか完全とはいかないのだから、自然を読むというのがいかに難しいかということか。

終わった途端に(当たり前だが)出されたレポートに頭を悩ませつつ、我々の一日巡検は終わった。

全体を通して田宮先生が研究所の方にもセンターの方にも丁寧にあいさつしておられたのが印象的だった。

どこへ巡検に行ってもその土地の方々は親切にして下さるが、先生と土地の方々が友好的だと、こちらも安心してご好意に甘えていい気になる。健康的で気持ちのいい巡検だったと思う。

(10月4日 田宮教官指導)

相 模 原 巡 検

小 池 桃 子

お茶の水女子大学に入学し、大学生活にもそろそろなれてきた7月に、私達1年生にとって最初の巡検が行われた。入学式の日、巡検に行くのが楽しみだ、と自己紹介した私であったから、待ちきれない思いでその日を迎えた。今回の巡検地は相模原市である。10時に相模大野駅に集合し、小雨の降る中、まずは相模原市役所の出先機関である相模大野駅周辺事務所へ。ここで当市の抱える諸問題や現在進められている都市計画の概要を伺った。相模原市は人口約51万人、全国656都市中21番目に多い人口を持つ、首都圏域における中核都市であるが、市民のニーズに十分応えるだけの中心商業地を持っていない。そのため現在市の消費購買力の実に5割以上が市外へ流出している。相模大野地区は、この現状を改善するために相模原市が策定した「相模原市商業振興ビジョン」に

よって、中心商業地に指定された地域の1つで、将来は相模原市の商業的支柱となるべく現在開発が行われている。その具体的な開発計画を伺いながら私達は必死でメモをとった。その後は事務所の屋上に上り、相模大野地区を一望した。屋上からは、事務所の方のお話の中にあつた平成二年完成予定の大型百貨店の建築風景や真新しい立体駐車場などが見渡せ、これから発展していく街の静かな躍動感が感じられた。次に私達はバスに乗って梨園へ向った。バスを降りるとその車道沿いに梨園はあり、車の往來の激しいこの通りに沿ったこんな所で農業をしているのかと内心驚いた。この地で戦後から農業をやってこられた園主の鈴木さんから様々なお話を伺った後、再びバスに乗って日本シュルンベルジェに向った。バスを降りて少し歩いた所にその会社はあつた。芝生の敷きつ